

科学技術コミュニケーション推進事業問題解決型科学技術コミュニケーション支援
(ネットワーク形成型)

平成 28 年度採択企画最終ヒアリング結果報告書

1. 企画名 市民と科学者を結ぶ放射線コミュニケーションのネットワーク基盤構築

2. 提案機関 NPO 法人 知的人材ネットワーク・あいんしゅたいん

3. 企画の概要

福島原発事故以後、低線量放射線の生体影響に対する評価の混乱が続き、市民の不安と科学に対する不信は今もなお根深く、市民も科学者自身も直接データを検討する機会が少ないまま議論が空中戦になることが多い。この事態を痛感し、当 NPO を中心に、異分野の専門家と市民が協力して被曝影響の根拠となった元データを分析し、5 年をかけて出版したのが『放射線 必須データ 32 (以後『32』と略称)』である。本企画は、『32』を資料として、福島・首都圏・関西圏をコアに市民・科学者コミュニケーションネットワーク基盤の構築を目的とする。市民・科学者双方にとって、偏見を排し真摯に議論を深める科学リテラシーを獲得する実践の場となる。

4. 最終ヒアリング結果総合所見

計画は達成され、ネットワークの定着・継続・発展が期待できる。

一般市民と研究者をつなぎ放射線に関するリテラシー向上のための企画を多様に講じ実施したことは評価できる。科学者同士の連携による課題が明確になり、その課題の解決の糸口に市民、特に高校生等の若者、女性が鍵であるという視点は重要である。市民参加による率直な議論が専門家（科学者）の姿勢や視野にポジティブな影響を及ぼし、本質的な議論が深まるといふ新たなコミュニケーションの方向性が明らかになったことは大きな成果である。

今後、ソーシャルメディアの可能性と問題点に留意しつつ、コミュニケーションの場の構築を継続してほしい。また、本事業を通じて構築したノウハウとネットワークを維持・発展すべく、NPO としての運営基盤を固めてほしい。

以上